

内科

総合感染症科

病棟 西病棟 16F

外来 外来診療棟C 2F 連絡先 022-717-7766 (外来)

ホームページ <http://www.tohoku-icnet.ac>



科長
青柳 哲史 特命教授

主な対象疾患

●重症全身性感染症 ・敗血症・細菌性心内膜炎・髄膜炎 ●呼吸器感染症 ・肺炎・気管支炎(慢性・急性)・上気道炎・結核・非結核性抗酸菌症・インフルエンザ ●消化器感染症 ・腸管感染症(細菌性・ウイルス性など)・胆道感染症 ●尿路感染症 ●外科手術関連感染症、移植関連感染症、免疫不全関連感染症、その他各科領域関連感染症 ●HIV感染症 ●薬剤耐性菌感染症 ●熱帯感染症・寄生虫感染症 ●新興ウイルス感染症(MERS, エボラウイルス病、鳥インフルエンザ感染症など)

診療内容

公衆衛生の普及や優れた抗微生物薬の登場で一見制圧できたかに見える感染症は再び私たちの前に大きな脅威として蘇ってきています。事実、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌や多剤耐性緑膿菌など薬剤耐性菌による院内感染事例が多発し、世界的なアウトブレイクへと発展した2009年のパンデミックインフルエンザウイルス感染症、その他エボラウイルス感染症、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ感染症(H5N1、H7N9など)、さまざまな新興・再興感染症が次々と出現しています。感染症は個人の問題に留まることなく時に社会全体の脅威となり、発生場所も市中・院内どこにでも起こりうる可能性を持つ疾患であり、当診療科では病院内外における感染症診療マネジメントを下記のように行っております。

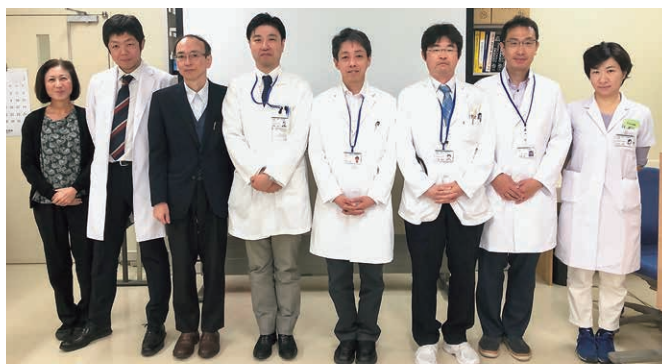
感染症は特定臓器の疾患に限らないため、総合的なマネジメント(診断、治療、予防)を心がけています。細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、原虫・寄生虫感染症と多岐にわたる感染症に対して、各科横断的に感染症診断へのサポート、抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬の選択や投与に関するアドバイス、感染予防に関するコンサルテーション業務を実践しています。具体的に、外来診療では不明熱、HIV感染症、渡航者感染症などを中心に診断・治療を行っています。加えて、病院内診療では、全診療科横断的に病院内感染症(例えばカテーテル関連血流感染症、術後感染症)、さらに移植関連感染症、免疫不全感染症など感染症予防・治療など担当診療科と協力しながら診療に当たっています。

診療体制

総合感染症科では、感染症専門医・指導医、抗菌薬化学療法指導医、インфекションコントロールドクター(ICD)、感染症実地疫学専門家などの感染症や感染制御に関するさまざまな専門的な資格を有する専門スタッフで対応しております。敗血症や肺炎などの重症・難治性感染症、薬剤耐性菌感染症、飛沫・空気伝播性感染症、移植関連感染症、免疫不全関連感染症、外科関連感染症など、院内におけるさまざまな感染症の診断・治療・予防に関する総合的なマネジメント業務を実践しております。

得意分野

感染症という疾患の特殊性と多様性から全人的医療を心がけております。また、原因となる微生物も多岐にわたりますので、様々な専門家と意見を交換しながら診療に当たっております。感染症は原因微生物が伝播するという特殊性があり、個人や医療施設を超えて、地域全体に伝播蔓延する可能性があります。そこで、総合感染症科では、当院での感染症の総合的なマネジメントを実践するとともに、地域の医療施設における感染症診療・感染症対策にも協力支援しております。加えて、2018年に宮城県における第一種感染症指定医療機関として、エボラウイルス感染症などにも対応可能な第一種病室を東北大学病院内に設けましたので、各医療機関・行政との連携を深め運営を行ってまいりたいと思います。



集合写真

ご紹介いただく際の留意事項

- 新患日は月・木の午前中となっております。
- その他の曜日で、緊急を要する診察をご希望の場合は、必ず総合感染症科外来までご連絡ください。